

令和6年度 第1回厚木市地域公共交通会議 概要

開催日時	令和6年8月1日（木）午前10時00分～11時15分
開催場所	厚木市役所第二庁舎 農業委員会会議室
出席委員数	13人（全16人中）
傍聴者数	0人
会議の経過	<p>1 開会 事務局 【内容】 今期の会長及び副会長の選任について、事務局案を提示し、全委員から承認をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長 梶田委員 ・副会長 新倉委員 <p>2 あいさつ 会長</p> <p>3 報告</p> <p>(1) シェアサイクルについて ≪資料に基づき事務局が説明≫ 【内容】 現在、市内には、4か所に民間運営のシェアサイクルがあるが、今年度から市営駐輪場の指定管理者となったオリエンタルコンサルタンツから自主提案事業として、市営駐輪場の一角でシェアサイクルが出来ないかという提案がされ、担当課で調整中であることを報告。</p> <p>【主な意見】 （会長） 開始時期などはあるのか。 （事務局） 現在、場所の選定等を行っている聞き及んでいる。</p> <p>(2) バス待ち環境の改善・整備（上屋・ベンチ）について ≪資料に基づき事務局が説明≫ 【内容】 厚木市コンパクト・プラス・ネットワーク推進計画は、1日の乗客が100人を超える30か所のバス停の上屋の整備を行うこととしている。</p>

市では、バス利用環境改善補助制度を設けており、交通事業者が設置する場合は、上屋で上限 90 万円、ベンチで上限 10 万円の補助を実施している。

現在の上屋設置状況は、バス停 289 か所中 121 か所に設置し、41.9%の設置率となっている。

令和5年度は、穴口橋バス停に上屋を設置した。

令和6年度は、愛甲石田駅北口の3、4番線に既に上屋を設置済みで、さらに妻田薬師バス停と、現在神奈川中央交通と協議中だが、古松台入り口に上屋の設置を目指している。

【主な意見】

(委員)

バスの上屋については、最近豪雨が多いため、大変助かっている。

上屋設置にはいろいろな条件があり、設置ができない場所もあると思うが、大雨の中、高齢者がバスを待っていることがあり、何とか対応できないかと考えている。

(事務局)

全てのバス停にすぐに付けるということは、難しい。

乗降者数が多いところから順次、また、条件が整ったところから順次設置させていただいている。

バリアフリーの関係から、上屋を立てた状態で歩道が2m以上ないと設置が難しいというところが、1番のネックになっている。

神奈川中央交通から上屋の幅が短いタイプも出てきているので、考慮しながら、できるところから進めていきたいと考えている。

(3) 路線退出等意向申し出について（神奈川中央交通）

《資料に基づき事務局が説明》

【内容】

神奈川中央交通から、神奈川県生活交通確保対策地域協議会あてに市内にある2路線に対して退出路線の意向申出があった。

どちらの路線も土曜日に1本の運行となっており、路線退出は致し方ないと市では考えている。

対象路線に荻野新宿、荻野運動公園の前を通過して宮の里に行くルートがあるが、荻野運動公園で催物等がある際に臨時便を出していただいている経過があるため、催事運行として路線を残せないか、神奈川中央交通に打診をさせていただいている。

【意見なし】

4 議題

(1) コミュニティ交通の取組について…【承認】

《資料に基づき事務局が説明》

ア コミュニティ交通の状況等について

【内容】

市では厚木市コンパクト・プラス・ネットワーク推進計画において、日常生活の移動に不便を感じている方への移動を確保するための取組を実施しており、令和6年度現在、地域コミュニティ交通として、鳶尾・まつかげ台・みはる野地域で「ココモ」、森の里地区で「森の里ぐるっと」が運行されている。

(鳶尾・まつかげ台・みはる野地域コミュニティ交通「ココモ」)

- ・ココモは、平成30年度から実証実験を行い、令和6年1月25日から道路運送法4条に基づき、継続運行を行っている。
- ・令和5年度の1日当たりの平均利用者数を21.9人、1便当たりの平均乗車者数は、5.2人だった。
- ・単なる移動手段としてだけでなく、車内での会話から新たな地域コミュニティが創出されており、地域特性やニーズに適合した運行を行っている。
- ・地域からの利用者ニーズがあること、地域特性や地域ニーズに適合し、定着していること、運営協議会で設定した目標を達成していることから、引き続き、運営協議会と協議し、地域自らが主体となり支え合う仕組みづくりを目指す。

(森の里ぐるっと)

- ・森の里ぐるっとは、一般社団法人厚木ぐるっとが主体となり実施している地域住民の手による住民ニーズに適合した住民乗合交通のこと。
- ・昨年度まで自ら費用を捻出し、運行をしていたが、自主財源による運営が厳しいことから、令和5年4月に市に対し、運行に係る経費の支援について要望書が提出された。
- ・要望書をもとに、令和5年度に森の里ぐるっと運営協議会の設置、運行規約の制定等の体制が整ったため、令和6年度から運営協議会に対し補助金を交付し支援を行っている。
- ・今年度の利用者数の目標は、年間4,000人、月約334人と設定し、令和6年6月までの利用者は目標を達成している。
- ・ココモ同様、利用者ニーズが高いこと、地域特性や地域ニーズに適合し定着していることから、継続運行に向け「地域自らが主体となり支え合う仕組みづくり」を引き続き目指していく。

【主な意見】

(委員)

「ココモ」の運行について、タクシー事業者が受託しているが、利用者から意見や苦情等はないか。

(事務局)

ありません。

(委員)

ココモでは、運賃 100 円を徴収していて、森の里ぐるっとは無料となっているが、違いは何か。

(事務局)

運賃は、各運営協議会で決定している。

ココモについては、100 円を徴収することで、本当にココモを利用した方、必要としている方を乗せることができるということで設定している。

森の里ぐるっについては、市が支援をする前から無料で運行しており、それが地域に根付いているため、今から運賃を徴収することは難しいと運営協議会で判断し無料で運行している。

イ 「日常生活における移動に関するアンケート」集計結果について

【内容】

令和 5 年度は、上依知地区、下依知地区、宮の里地区、飯山地区（アメニティヒル本厚木）の 4 地域でアンケートを実施し、アンケート結果については、本会議で承認後、ホームページ等で公開し地域住民に周知する。

(依知・藤塚地区、下依知地区、宮の里地区アンケート結果)

- ・市全体の高齢化率 26.0%、全国が 28.6%と比較すると、宮の里が 46.4%と高さが際立っている
- ・全ての地域で回答率が 50%を超えており、また宮の里の回答率においては、62.7%であり、どの地域においても関心の高さが伺えた。
- ・7～8割の家庭で、自家用車を所有しており、車社会の地域であることがわかった。
- ・困り事の主な内容としては、歩くことがつらい、バスの便が少ない、スーパーが近くにない等があった

(アメニティヒル本厚木アンケート結果)

- ・スーパー三和厚木飯山店が建設中だったため、開業後にアンケート結果に影響が出ると考えられたことから、開業前と開業後にアンケートを実施した。

- ・両方とも半数以上の回答があり、関心の高さが伺えた。
- ・7割以上の家庭で自家用車を保有していた。
- ・主な困り事では、坂が多いためバス停までの移動が辛い、車やオートバイの運転が困難という内容だった。
- ・移動手段では、車での移動が大部分だが、スーパー三和ができたことで、徒歩で買い物に行く人が増え、日常の買い物の不便さは解消されたように伺えた。

【意見なし】

ウ 今後のコミュニティ交通の取組の方向性について

【内容】

アンケートや実証実験を実施した5地域において、アンケート結果やヒアリングの意見を取り入れ、今後の取り組みとして、既存の制度をさらに周知し促進していく地域と、コミュニティ交通の正しい知識を持ってもらうため、勉強会の開催を検討していく地域を選定した。

本会議終了後、勉強会開催予定の地域については、自治会長等を通して調整を行い、今年度中に勉強会開催を目指す。

(毛利台地区)

- ・デマンドタクシーの実証実験を行ったことにより、タクシー利用への抵抗感が以前より低くなり、コミュニティ交通に対する要望も薄まってきた。
- ・今後は、タクシーチケットを利用した乗り合い乗車などをさらに推奨していくとともに、引き続き意見交換を行っていく。

(上依知地区)

- ・コミュニティ交通導入の意向が強くある地区で、アンケート結果から、愛川町に買物等に行っている方が多く、愛川町のコミュニティバスと連携を望んでいる人もいる。
- ・現在、地域内にドラッグストア、スーパーの開業予定があり、よれにより意向が変化する可能性がある。
- ・現状は導入意向が強いため、コミュニティ交通に関する学習機会が必要と考え、今年度中に、地域で勉強会の開催を提案していきたいと考えている。

(下依知地区)

- ・自動車への依存が高く公共交通機関の利用頻度が低い状況となっているが、コミュニティ交通の導入というより、地域へのスーパー等誘致を

望んでいる人が多い。

- ・公共交通機関の利用を促すとともに、引き続き意見交換を行っていく。

(宮の里地区)

- ・アンケート結果からも、高齢者世帯が約 7 割を占めている状況となっており、バスの便数も少ないことに対して困っている人が多いことから、コミュニティ交通導入意向が強い地区である。
- ・上依知地区同様、コミュニティ交通に関する学習機会が必要と考え、今年度中に、地域で勉強会の開催を提案していきたいと考えている。

(アメニティーヒル本厚木)

- ・飯山地区アメニティーヒル本厚木は、バス停までの移動に苦慮している人が多いということがわかったため、タクシー利用を推進することが合理的であると考えている。
- ・タクシーチケットを利用した乗り合い乗車及びかなちゃん手形購入費助成の活用等をさらに周知し、公共交通機関の利用を促すとともに、意見交換を継続的に行っていく。

【主な意見】

(委員)

タクシーチケットやかなちゃん手形の助成拡大は、免許返納者も利用ができ大変助かっている。

しかし、タクシーチケットを受け取っている人の中には、自分で使わず家族に渡している人もいるとのこと。

障がい者助成でも不正な利用があるとのこと、市のほうからチケット、手帳を渡す時などに注意事項をよく言い聞かせて欲しい。

(事務局)

本市の考えるコミュニティ交通は、コミュニティバスだけではなく、タクシー券の利用もコミュニティ交通の一環として考えているので、引き続き、福祉部とタクシー券の使われ方など相談しながら進めていく。

(委員)

助成の拡大など、コミュニティ交通の中身が充実してきたと感じる。

障がい者の中には、厚木の街中に買い物に行きたいが、道路が広く渡るのに時間がかかる、バス停まで行くのに杖をついて 10 分以上かかるなど不便を感じている人もいる。

バス停までなどのコミュニティバスが出来ないか、やってもらえないかずっと思っていた。

今後のスケジュールなどがわかれば教えてほしい。

【事務局】

具体的な時期は決まっていないが、今後、アンケート結果をホームページ等で公表し、上依知、宮の里地区については、今年度中に勉強会開催できるよう自治会長に投げかけをしたいと考えている。

(2) 地域公共交通確保維持改善事業について…【承認】

《資料に基づき事務局が説明》

【内容】

バリアフリー車両の導入に当たり国からの支援を受けるために、地域公共交通会議で協議し、「生活交通改善事業計画」を策定して国に提出する必要がある。

現在、厚木市乗合バス車両は169台あり、そのうちノンステップバスが106台となっており、導入率は62.7%に留まっているため、2025年までに導入率を80%に近づけるように事業を進めていく。

今年度は15台のノンステップバスの導入を予定されている。

【主な意見】

(会長)

今年度15台購入すると、導入率はどのくらいになるのか。

(委員)

年度末までで69.9%と想定している。

(会長)

計画期間の2025年2026年は記載がないが、良いのか。

(事務局)

年度ごとの記載で問題ない。

(会長)

3年間(2024、2025、2026年)の導入予測は考えているのか。

(委員)

中期ビジョンで、車両数的には予測は立てている。

5 閉 会
事務局